

6月26日(金曜日)「苦しみも幸せ」

【新改訳 2017】

詩篇 119・65－72

「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。あなたの御口のおしえは、私にとって幾千の金銀にまさるものです。」(71、72節)

ふつう、私たちは苦しみに会うことは望みませんし、苦しんだことを幸せとは思えません。しかし、この詩篇記者は、苦しみに会ったことは自分には幸せであったと言っています。負け惜しみと思われるでしょうか。いいえ、ここには確かな理由があるのです。「私はそれであなたのおきて(=神の御教え)を学びました」ということです。

人生に苦しみはつきものです。そして、試練の中でその人がわかるとも言われます。筆者は 19 歳のころに中学校の助教諭として奉職し、職場の矛

盾と病気に悩み、不眠と不安、虚無感に苦しんだ時、聖書のことば「患難さえも喜ぶ」(ローマ5・3)に出会い、救いに導かれました。このみことばは、まことに真実であることを体験させていただきました。

～祈り～

主よ。あなたは、私たちの苦しい経験さえ幸せに変えてくださる方です。苦しい試みにあっている人が、この幸せを知ることができますように、お助け下さい。

【学びのために】

詩篇 119 篇は、聖書の中でも最も長い章。主のみことばが、いかに多面的にすばらしいものであるかの証しの詩篇。「みことばの賛歌」とも言われています。ヘブル語のアルファベット順に各段落の最初の文字が始められており、日本語でもリズムカルで美しい詩篇です。ぜひ全体を読んでください。

